サイバー美少女 テロメア

Official Book

サイバー美少女 テロメア Official Book

AKABEI SOFT2 PM

WEEKEND DRAMA

サイバー美少女

テロメア

テレビ朝日系列にて絶賛放映中！

つぐみ/嘉門洋子/三輪ひとみ
田邊晋太郎/藤原竜也/森ひろこ

サイバー美少女 テロメアOfficial Book

[サイバー美少女テロメア Official Book APORT]

©円谷プロ・テレビ朝日

編集　平賀　和明
構成　生方　之虎

発行人　柴田　延宏
発行所　株式会社パナソニックワンダーテインメント
〒151-0051　東京都渋谷区千駄ヶ谷4-12-8

販売所　株式会社主婦と生活社
〒104-8357　東京都中央区京橋3-5-7
電話　03-3563-5121
振替　00100-0-36364

印刷所　株式会社天友社

監修　株式会社円谷プロダクション
協力　円谷一夫・高野宏一・中嶋豪・横谷まさひろ

落丁、乱丁、その他不良本はお取替えいたします。
写真　KATSU
デザイン　新美　稔+Balance of Proportion, Inc.
ヴィジュアルコーディネイト　吉永多賀士(吉永事務所)
1998 Printed in Japan ©Panasonic Wondertainment
ISBN4-391-12207-3

本書の全部または一部を無断で複写複製することは、
著作権法上での例外を除き、禁じられています。

LSR
GREAT BRITAIN

Satoru Masaoka

真岡サトル

アサギのボーイフレンド。
しかし、やがて自らの能力に覚醒する。

藤原竜也 ： The date of birth 1982.5.15/Age 15/Birth Saitama/A blood type A 「身毒丸」ロンドン公演主演　ＣＸ「それが答えだ！」出演

AM
追
WEIGHT
330
KGS
84X138 CM
INSTRUMENTS HANDLE WITH CARE

Tendo Shu

天童シュウ

「融合」という超能力を持つ17才の少年。
超能力者達を殺し、自分の中に取り込み融合し、「神」になろうとする。

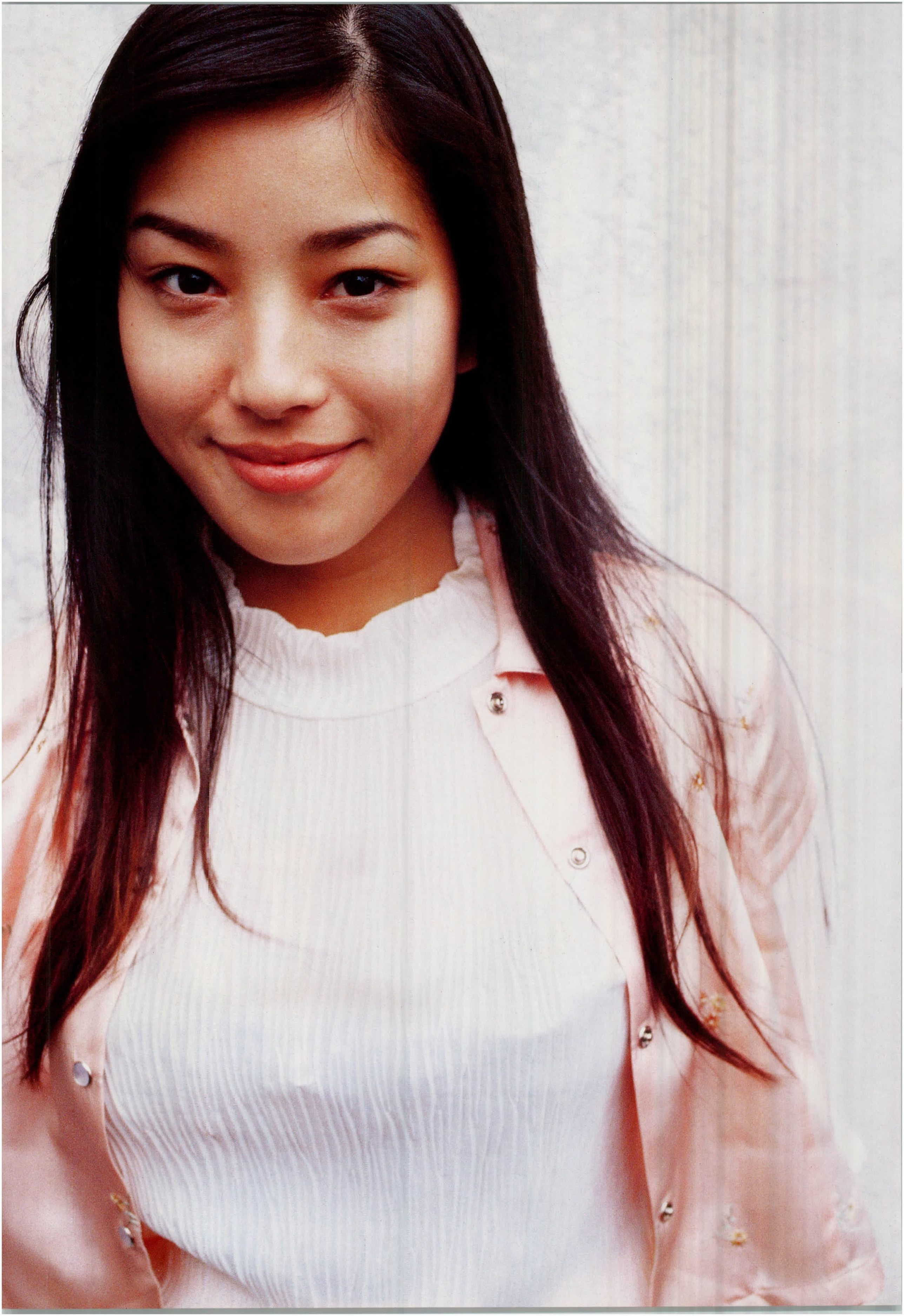
田辺晋太郎 : The date of birth 1978.11.5/Age 20/Birth Tokyo/A blood type A　本作品がデビューとなる。

Itsumi Tsukishima

月島イツミ

リーディングの能力に優れた17才の少女。
感受性が強く大人しい性格で、自閉的なところがある。

三輪ひとみ：The date of birth 1978.12.18/Age 20/Birth Kanagawa/A blood type B/Size B82 W56 H82　映画「D坂の殺人事件」他



Rena Tachibana

橘　レナ

強大なサイコキネシスのパワーを持つ17才の少女。
感情の起伏が激しく、暴走することがしばしばある。

嘉門洋子：The date of birth 1980.3.6/Age 18/Birth Ishikawa/A blood type O/Size B88 W58 H86　CX/主催ビジュアルクィーン・オブ・ザ・イヤー1997

Asagi Kujyo

九条アサギ

各々の力はさほど強くはないが、いくつかの能力を持った17才の少女。
未知の力を内に秘めている。

つぐみ：The date of birth 1979.2.21/Age 19/Birth Tɔkyo/A blood type O/Size B88 W57 H88　映画「ねじ式」他

PLOT

CYBER 1 「覚醒」

17才の誕生日に超能力に覚醒したアサギの前に現われる、レナとイツミ。そして、「融合」という超能力を持つ謎の少年、シュウ。
次々と超能力に覚醒する少年少女達を保護しようとする遺伝子学者・門倉の真の目的は何なのか—?

CYBER 2 「サイコレイパー」

透視とサイコキネシスの力を使って離れた場所から次々と女性をレイプするサイコレイパー、レイジを追う、アサギ達。
たった一人の姉をレイジに殺された少女・トモコを守るため、レナは闘う—。

CYBER 3 「記憶泥棒」

イツミはヤヨイという少女と出会い、心を通わせる。が、ヤヨイは、他人の記憶を盗んで自分の記憶にしてしまう能力を持っていた。
多くの記憶を盗み過ぎたヤヨイは、やがて、自分自身の本当の記憶を見失っていく—。

CYBER 4 「ネット」

アサギ達は、コンピューターネットの中を彷徨うアキラという少女の意識と出会う。
アキラの肉体が門倉の研究所内に保存されていることを知ったアサギ達は、アキラを救い出そうとするが—。

CYBER 5 「暴走」

過去のトラウマがレナの超能力を暴走させる。制御不能に陥ったレナを抹殺しようとする門倉と対峙する、アサギとイツミ。
門倉が関与していた17年前の実験とは何だったのか—?

CYBER 6 「脱出」

門倉の手に落ちたアサギ達は、隔離施設に閉じ込められ、意識を奪われる。
ボーイフレンドのサトルの助けで、なんとか脱出に成功したアサギ達の前に、Ψ(サイ)が立ちふさがる—。

CYBER 7 「過去」

門倉のもとから脱出したアサギ達は、記憶喪失の老人・和泉と出会う。和泉は、門倉が17年前に関与していた遺伝子実験の責任者で、
超心理学の権威だった。門倉はアサギ達を抹殺すべく、再び、Ψ(サイ)を仕向けるが—。

CYBER 8 「テレポート」

テレポートの能力を持つ少女・ケイが、門倉の研究所を脱走した。恋人のもとへと向かうケイを保護しようとするアサギ達。
が、テレポートの失敗による植物の細胞との融合で、ケイの身体は徐々に人間でなくなっていく—。

CYBER 9 「残留思念」

アサギ達は、10年前に死んだ吉岡という超能力者の残留思念と出会う。
シュウは、予知能力を持つ吉岡の娘・カオルと融合し、その力を手に入れようと迫る。吉岡の残留思念は娘を守ろうとするが—。

CYBER 10 「遺伝子」

失われた和泉の記憶を辿ることでアサギ達は、ついに17年前の実験の真実を知る。自分達は何のために、この世に生まれてきたのか?
Ψ(サイ)との戦いで傷ついたアサギを守ろうとして、死を覚悟するサトル。アサギの怒りと悲しみが爆発する—。

CYBER 11 「融合」

アサギ達は、自分達を生みだした悪魔の実験に関する全てを抹消するため、研究所を破壊する。
一方、シュウは、残された最後の能力を手に入れるため、アサギと融合しようとする。
自身の運命と存在を賭けて、アサギはシュウに最後の戦いを挑む—。

MESSAGE

美少女の時代だから・・・こんなドラマは、いかがですか？

テレビ朝日　プロデューサー

中嶋　豪

ひと昔前ならば超能力を持っていることがヒーローとして受けとめられていた。スプーンを曲げたり次に起きることを予知したり、そのことが本当であろうがウソであろうが、そんな能力を持ってる人がいたら羨ましいと思った。このサイバー美少女「テロメア」は、超能力を持つがゆえに見えたくもない人の心が見えたり、好きな人が考えていることを読めてしまったり、争わなくていい人と戦ったり・・・超能力が覚醒したその瞬間から普通の女の子として生きていけなくなった美少女たちの話である。

選ばれた人間となり、その自らの超能力のパワーに押しつぶされそうになりながらも、苦しみ、悩みつつなんとか生きていこうとするアサギ、レナ、イツミ・・・自らの能力と他人の超能力を融合して、神にならんとするシュウ・・・恋人（アサギ）が覚醒して超能力者となってしまったことを知るサトル・・・本当の目的は何なのか・・・彼女たちを巧みに操る門倉・・・そして後半に登場する謎の美少女Ψ（サイ）・・・この強力なキャラクターを演じるつぐみ、嘉門洋子、三輪ひとみ、田邊晋太郎、藤原竜也ら新鮮な若手俳優陣を得て、このドラマはビジュアル的にもパワーアップしている。

それを証明するのが、今回のKATSUさんのすばらしい写真である。この写真をみていると、サイバー美少女「テロメア」は横谷、笠井両氏の魅力あふれるストーリー展開と、カメラ、照明、美術、CGなどの優秀なスタッフ陣に支えられて出来たのだなあと、あらためて感謝の念でいっぱいになる。さらに円谷プロダクションならではの空想科学的なテイストをブレンドしたSFエンターテイメントドラマ、サイバー美少女「テロメア」。映像とともにこの本をお手元にアポートできれば幸せである。

MESSAGE

株式会社　円谷プロダクション
代表取締役社長　円谷　一夫

ご挨拶

いつも、円谷プロダクションを応援してくださり、また

この度は「サイバー美少女テロメア　Ｏｆｆｉｃｉａｌ　Ｂｏｏｋ　ＡＰＯＲＴ」ご購入頂き有難うございます。

今回、制作し放送を開始した「サイバー美少女テロメア」は、円谷プロの長年の夢であった、初の美少女を主人公としたＳＦドラマです。主人公の３人の超能力美少女には、現在グラビア等で大活躍中の“つぐみさん”“嘉門洋子さん”“三輪ひとみさん”を起用し、若い男性をターゲットにしたいと考えております。

本作品ではＣＧやエフェクトの技術を多用しております。実際には起こり得ない驚きの映像をお楽しみ頂けたら幸いです。また、本番組は従来型の商品展開にはとどまらない、Ｏｆｆｉｃｉａｌ　Ｂｏｏｋやフィギュアをはじめとする様々なマルチメディア的展開を行ないたいと思っております。

本書は、３人の主人公の魅力的なスチールに加え、作品のガイドブック的な役割をはたす要素を持たせており、この本を見ながらドラマの方をご覧いただければ、楽しさもより一層面白みが増します。番組と連動したＯｆｆｉｃｉａｌ　Ｂｏｏｋ、あなたは、もう“テロメア”の世界に引き込まれ、この本を手放すことはできないでしょう。

円谷プロダクションがお届けする新ジャンルの作品。

心ゆくまでお楽しみください。

SCENARIO-AWAKENING-

20　商店街

異様な表情で歩くミチコ。
意味も聞き取れない程に圧倒的な量の声がミチコの頭の中で響いている。
頭を押さえ叫び声を上げるミチコ。
通りかかった人が驚いてミチコを見る。

ミチコ「ギャアアア！」
女　「キャッ！」
ミチコ「うるさい！うるさいんだよ、黙れ黙れ黙れ！」
激しく女を指さぶるミチコ。
恐怖で顔が引きつっている女。
遠巻きに見る通行人たち。

21　道

走るレナ、アサギ、イツミ。

22　商店街

パトロールの警官が騒ぎを見つけて近付いていく。
警官に気づくミチコ。
そのスキに転がるように逃げる女。
近付いてくる警官。
その警官の拳銃を見るミチコ。
次の瞬間、拳銃はミチコの手に握られている。
引き金を引くミチコ。
銃声と人々の悲鳴がこだまする。
ハッとして立ち止まった警官、拳銃に手をやるが、無い。

警　官「!?」

23　商店街近くの道

走るレナ、アサギ、イツミ。
また銃声が聞こえてくる。

レ　ナ「！」
イツミ「（何かを感じ）あっちよ」
イツミが示した方へ走る三人。

24　警察署・廊下

廊下を一人の警察官が歩いている。

坂　田「判った、すぐいく」

サトル「見つかったんですか、嶋田？」
坂　田「警官の拳銃を奪って逃走した」
サトル「まさか……」
坂　田「間違いない。あっ君、帰っていいよ」
サトル「僕も連れていって下さいよっ」
坂　田「危険だ。拳銃を持っているんだぞ」
サトル「僕だったら、彼女を止められるかもしれないですよ」
坂　田「……」

25　スクラップ工場

工場前入口、入って行くアサギ、レナ、イツミ。
人気のない場所。
走ってくるレナ、アサギ、イツミ。
何かを感じるイツミ。
フォークリフトの影にうずくまっているミチコ。
目配せをして近付いていくレナとイツミ。
二人に気づき、ビクッと振り返るミチコ、目に狂気が宿っている。

アサギ「ミチコ……」
ミチコ「来るなー！ぶっ殺すぞ！」
と拳銃を構える。
レ　ナ「助けに来たのよ。そんなモノ捨てなさい」
ミチコ「近付くんじゃねぇ！」
レ　ナ「一緒に来て」
発砲するミチコ。
イツミ「無駄よ。話が通じる状態じゃない」
レ　ナ「……仕方ない」
キッとミチコの拳銃を睨むレナ。
弾かれたように飛ぶ拳銃。

ミチコ「！」
アポートで拳銃を引き寄せようとするミチコ。
アサギ「もう、やめて！」
とミチコに駆け寄る。
チラリとイツミを見るレナ。
無表情のままのイツミ。
ミチコを抱き起こすアサギ。

アサギ「ミチコ、私よ、判る？助けて欲しかったんでしょ？私のこと呼んでくれたんでしょ？だから来たんだよ」
ミチコ「……声がするの。みんなの声が」
アサギ「うん……」
ミチコ「下らないんだよ……みんな下らないことしか考えてない。うるさくて、たまんない」
アサギ「聞こえなくなるよ。そんな声、聞こえなくなるから…」
ミチコ「みんな死んだ方がいいのよ」
いつの間にかミチコの手に拳銃が握られている。

アサギ「！」
レ　ナ「！」
イツミ「待って……」
レ　ナ「え！」
アサギの目から涙が流れている。

アサギ「思い出してよ……」
ミチコ「……」
アサギ「昔のミチコに戻ってよ。一緒に遊んだじゃない。楽しかったじゃない……。それも、みんな下らないことだったの？」
アサギの涙がミチコの拳銃を掲った手を濡らす。
ミチコの目に微かに柔らかなモノが戻る。

ミチコ「……アサギ」
次の瞬間、ミチコの体が何かに引っ張られたように飛び、壁に張りつけられた様になる。
キッとレナを見るアサギ。
何もしていない、と首を振るレナ。

イツミ「誰かいる……」
ミチコ「ギャアアア！」
突然、フッと静かになり、バッタリと倒れるミチコ。

アサギ「ミチコ！」
ミチコに駆け寄るアサギ。
いつの間にか、すぐ近くに立っている天童シュウ（17）。
シュウを見て驚くアサギ。

レ　ナ「あんたがやったのね！」
シュウ「彼女は弱すぎた。素晴らしい能力を持っていたのに」
レ　ナ「だから殺したの？」
ミチコの体に触れるシュウ。
シュウの腕が何かを飲み込んだように奇妙な形に変形し、次の瞬間、元に戻る。
茫然と、見ているレナ、イツミ、アサギ。
シュウ「どうせ、生き続けることはできなかった。早く楽にして上げた方が彼女の為だ」
レ　ナ「ふざけんじゃないわよ！」
レナの全身から衝撃波が走る。

25A　スクラップ工場

涼しい顔で跳ね返すシュウ。

レ　ナ「何者なのアンタ!?」
シュウの心を読もうとするイツミ。
シュウ「（イツミを見て微笑み）無駄だよ。君程度の力では僕の心は読めない」
イツミ「……」
シュウの手に手品のように時計の針が現れる。
イツミ「アポート……？」
シュウ「（満足げに）なるほど、便利な力だ」
レ　ナ「力を取り込んだの？」
シュウ「今度は僕の番だ」
シュウの手を離れた学校、校門のオブジェがまるで意思を持つようにレナに襲いかかってくる。

レ　ナ「――」
空中で停止するオブジェ。
レナが力で止めたのだ。
シュウ「力くらべするつもりかい」
必死でオブジェを押さえているレナ。
薄笑いを浮かべているシュウ。
シュウ「悪いけどレベルが違うよ」
つっかえを外されたように、物凄い勢いでレナに襲いかかり、制服を切り裂くオブジェ。
制服の下のサイバースーツが見える。
まるで生き物の様に飛んでレナとイツミの制服を切り裂いていくオブジェ。
決して深い傷は与えず、楽しんでいるようだ。
シュウ「君たちに関心はない。邪魔さえしなければ何もしないさ。だけど、門倉に操られてるなら、いずれぶつかることになるかもしれないな」
必死にオブジェから逃げることしかできないレナとイツミ。

シュウ「なんなら、今、楽にして上げてもいいよ。どうする？」
レナとイツミの答えを待つように制止するオブジェ。

アサギ「やめてっ！」
ポトリと地面に落ちるオブジェ。

シュウ「？」
怒りに燃えた目でシュウを睨んでいるアサギ。

アサギ「――」
突然、アサギのまわりに強い風が吹く。
アサギの全身から、激しいオーラのようなものの発せられている。
息を飲むシュウ。
レナとイツミも息を飲む。

アサギ「――！」
衝撃を受け、シュウの顔が歪む。
カッ、と閃光が走り―。
シュウの姿はいつの間にか消えている。
レナとイツミ、ヨロヨロと起き上がる。
アサギは我に返り、自分のやったことに茫然となっている。
アサギ、自分の手を茫然と見つめ、つぶやく。

アサギ「……なんなの、一体……。私、どうなっちゃったの……」
シュウの声「久々に面白い体験をさせてもらったよ、九条アサギ君。また会えるのを楽しみにしてる」
周りをみるがシュウの姿はない。
茫然とアサギを見ているレナとイツミ。

イツミの声「すごい、こんなの初めてみた……」
レナの声「何なのよ、このコ。どんな力を持っているの……」
アサギ「？」
二人の唇は動いていない。

声　「なんだ、今の音？」「早く買い物行かなきゃ」「ったく、なんだよ、あの馬鹿野郎」「チクショウ、全然出ねえじゃねえか、この台」「腹減ったなあ…」「パパア、邪魔だぞそんな所歩いてると引き殺すぞ」「会社帰るのかったるいな、このままフケちまおうかな……」
等々、様々な人の声がアサギの頭の中で響き、やがて意味を成さない騒音となっていく。

アサギ「（パニックになり）キャアァァァ！」

26　商　店　街

ミチコを捜している坂田とサトル、その声を聞いて、

坂　田「！」
サトル「アサギ！」
声の方向へ走る二人。

27　スクラップ工場

とび込んでくる坂田、サトル。
ミチコの死体だけがある。
アサギを捜すサトル。

サトル「アサギ……、アサギー!!」

28　門倉遺伝子学研究所・治療室

ベッドの上で目を覚ますアサギ。
研究助手・如月リエコが表情のない顔でアサギの体を調べている。
アサギは服を脱がされサイバースーツだけを着せられている。

アサギ「……どうしたの、私」
何も答えないリエコ。

アサギ「（サイバースーツに気づき）何なのよ、これ!?」
アサギ「……？」

29　同・通路

光のチェックゲートを通ってシールドルームへ向かうリエコとサイバースーツ姿のアサギ。

30　同・シールドルーム

リエコに連れられて入ってくるアサギ。
レナとイツミがいる。

アサギ「レナ……イツミ……、どうしたの、私？」
レ　ナ「ファーストクラッシュよ」

アサギ「ファーストクラッシュ？」
レ　ナ「覚醒。……つまり、潜在的な能力に目覚めた時に、激しいショックに襲われて神経がクラッシュするの。能力が強いほど、クラッシュも大きいわ」
アサギ「覚醒？私が！」
部屋の奥、ブルーのシールドウォールが浮かび上がる。
シールドの向こうに立っている門倉。
そのシールドウォールを通過して門倉の横に立つリエコ。

門　倉「ようこそ、今日から君もここの一員だ。九条アサギ君」
アサギ「（気づいて）ここの一員って？」
門　倉「私の名は、門倉。君のような特殊な能力を持った子供達を救う研究をしている」
アサギ「!?……」
門　倉「（小さな瓶に入った薬を見せながら）今、君の能力はこの薬とそのサイバースーツによって抑制されている。そして、そのスーツからは常に君の身体データがホストコンピューターに送られ、異常があった時に備えている」
アサギ「待ってください！私ここに入るなんて……」
門　倉「気の毒だが選択の自由はない。君の能力は危険だ」
アサギ「そんな……」
門　倉「君の友達の様になりたいのか？」

30A　スクラップ工場

フラッシュ。
狂気に陥ったミチコの姿。
「ギャアアア」

30B　同・シールドルーム

アサギ「……」
門　倉「君も知っての通り、最近、少年少女達による奇妙な犯罪が頻発している。それらの事件には、みんな超能力が関係していると私は考えているんだ。レナやイツミはまだ未完成だが、ある程度コントロールできるようになった」
アサギ「コントロール出来ないと……」
門　倉「ファイナルクラッシュ……暴走し、自らの命を断つ！……」
アサギ「！……」

31　同・通路

シールドルームから出てくるアサギ。
レナとイツミが立っている。

レ　ナ「よろしく」
アサギ「……」
レ　ナ「着替えとか、適当にアナタの部屋から持ってきたあるけど、足りないモノは後で取りに行けばいいわ」
アサギ「……」
レ　ナ「それと、これ」
と小さな包みを差し出す。

レ　ナ「部屋の前に置いてあった」
プレゼントとバースディカード。

アサギ「……そっか、誕生日だったんだ、今日」
レ　ナ「おめでとう。じゃ、今夜はゆっくり休んで」

32　同・アサギの部屋

バースデーカードを読むアサギ。
「HAPPY　BIRTHDAY！」
それに慌てて書き足したメッセージ。
『保健室から、急に消えて何やってんだ？帰ったら、すぐ連絡しろ』

32A　学校

アサギの脳裏に蘇るサトルのイメージ。

32B　アサギの部屋

アサギ「……サトル」
アサギの目から、こらえていた涙が溢れ出た。

第一話　THE　END

SCENARIO-AWAKENING-

テレビ朝日 ウィークエンドドラマ

サイバー美少女

アロメア

第1話
「覚　醒」

第2話
「サイコレイバー」

第3話
「記憶泥棒」

決定稿

制作 テレビ朝日
円谷プロダクション

第一話　覚　醒

脚本　横谷　まさひろ
　　笠井　健夫

1　ショッピングセンター

一人の少年がフラフラと歩いている。
どこか常軌を逸してる、少年の目。
そのまま、店を出て、ショッピングセンターが吹き抜けになっている広場の手摺りを乗り越え、下に飛び降りた。
どさっ、という鈍い音。
買い物客の中から、悲鳴が上がった。

1A　同ショッピングセンター

――深夜。
少年の飛び降りた吹き抜けの広場、白いテープで人型が作ってある。
その人型を見下ろすように、制服姿の二人の少女の足。
橘レナ（17）と月島イツミ（17）だ。

レ　ナ「感じる？」
イツミ「……少しだけ」
レ　ナ「身を捩ってたのね」
イツミ「……たぶん」

サブタイトル

「覚　醒」

2　イメージ・闇の中

パースディケーキに17本のロウソクが灯っている。
ロウソクの灯の中に浮かぶ、美しい少年（天童シュウ）の顔―全裸。

シュウ「誕生日おめでとう、アサギ……」
魅入られたように身動きできずにいる全裸の九条アサギを、シュウは、そっと抱きしめ、唇をよせる―。

3　通学路・橋のある道

登校している生徒たち。
眠たげに歩いている九条アサギ（17）、大アクビ。
後からホッケーのスティックを持った真岡サトル（17）が声をかける。

サトル「よー寝ぼけた顔して歩いてんなよ」
アサギ「オハヨ。なんか変な夢見ちゃって……」
サトル「変な夢？」
アサギ「……誰だったんだろ、あの人。どっかでみたような気がするんだけど」
サトル「男か？」
アサギ「うん。すんごい美形」
サトル「どんな夢なんだよ？」
アサギ「（思わせぶりに笑って）秘密」
サトル「どうせ、キスしたとか、そんなんだろ？」
アサギ「なんで判るの!?」
サトル「やっぱそうなの？お前、欲求不満なんじゃない？」
アサギ「違うよ！」
と、鞄でサトルの背中を、パンと叩く。
鞄にぶら下がっていたカエルのマスコットがはずれて、コロコロと転がり、橋の下に落ちてしまう。
アサギ「あっ！」
取れそうもない場所に落ちているマスコット。
アサギ「サトルが変なこと言うからよ」
サトル「（慰めるつもりもあって）いいじゃん、あんなの」
アサギ「良くない！」
と下に降りようとする。
少し離れたところから、ひ弱で暗い感じの鳴田ミチコ（17）が、二人の様子をじっと見つめてる。
サトル「やめとけって。危ねえよ」
アサギを止めようとするサトル。
近付いてきたミチコと目が合う二人。

アサギ「ミチコ……」
サトル「学校、来れるようになったのか？」
異様な表情で橋の下を見つめているミチコ、スッと手を差し出す。
アサギ「？」
ミチコの手にカエルのマスコットがある。
驚いて橋の下を見るアサギとサトル。
落ちたはずのマスコットは無くなっている。
アサギ「どういうこと!?」
サトル「鳴田、お前……」
アサギにマスコットを渡し、歩き去るミチコ。
アサギ「（マスコットを確かめ）私のだ……」
茫然と顔を見合わす二人。

4　欠番

5　通学路

サトル「（ふと我に返り）待てよ、鳴田！」
アサギ「ねえ、これって、超能力なの？」
サトル「知るかよ。アイツに聞けよ」
前方を見て立ち止まるサトル。
ミチコがタチの悪そうな女生徒二名ほどに挟まれるように立っている。
脅されている様子。
サトル「あいつら、やっぱり……」
アサギ「イジメ？」
サトル「前から目ぇつけられてたみたいなんだ」
アサギ「じゃあ、学校、来なくなったのも？」
サトル「多分な……」
アサギ「どうする？」
サトル「放っておくわけに、いかないだろ」
アサギ「誰か、呼んできた方が良くない？」
サトル「そんな暇ないよ」
と、一歩踏み出した時、ミチコが大きく手を振り上げる。
その手に現れるホッケーのスティック。

サトル「!?」
アサギ「やめてぇっ!!」
スティックを振り下ろすミチコ。
声もなく倒れる二人。
なす術もなく見ているアサギとサトル。
折れるスティック。

アサギ「！」
気が遠くなり倒れるアサギ。
慌てて抱き抱えて起こそうとするサトル。
ミチコ「（立ち去ろうとして、振り返り）あのカエル……」
サトル「え？」
ミチコ「真岡くんのプレゼントでしょ？去年の誕生日の」
サトル「どうして、それを？」
ミチコ「だから無くしたくなかったのよ、アサギ」
サトル「……」
スティックを掴で立ち去るミチコ。
サトル「待てよ、鳴田ぁ！」
気を失っているアサギを放っておけないサトル。

坂田刑事に話を聞かれているサトル。
坂　田「突然ホッケーのスティックが現れたなんて、そんなバカな話があるか」
サトル「でも、本当なんですよ」
坂　田「だいたい、あのホッケーのスティックは君のじゃないか。最初から計画的に仕返しを手伝ったんじゃないのか？」
サトル「ち、違いますヨ。本当に何も持っていなかったんですよ、アイツは！何、言ってんですか!!……（ムッとする）」
やや離れた場所から、それを見ている橘レナと月島イツミ。
レ　ナ「警察にあんな話しても無駄なのに……」

6　学校・保健室

ベッドに寝かされているアサギ。
静かに入ってくるレナとイツミ。
レ　ナ「どうしよう、起こそうか？」
イツミ「説明するの面倒でしょ」
レ　ナ「大丈夫？」
イツミ「だいぶコントロールできるようになったから」
とアサギの顔に手を当てようとする。
その手が触れる前に、うなされるアサギ。
その瞬間、部屋の中のものがガタガタと振動。
枕元の水差しが歪む。
イツミ「？（とレナを見る）」
レ　ナ「何もしてないよ、私」
じっとアサギの顔を見るイツミ。
レ　ナ「まさか、この子も？」
イツミ「……覚醒しかけてる」
レ　ナ「そっか……」

7　イメージ

暗闇の中。
頭を抱えてうずくまっているミチコ。
救いを求めているような、目。
ミチコ「タ・ス・ケ・テ……」
と唇が動く。

8　学校・保健室

アサギ、目を覚ます。
レナとイツミの姿が目に入る。
アサギ「あなたたち……？」
レ　ナ「B組の橘レナと月島イツミ。顔ぐらい見覚えあるでしょ？」
アサギ「（うなずき）でも、どうして？」
イツミ「警察より先に鳴田さんを見つけたいの。協力して」
アサギ「え？」
レ　ナ「急がないと大変なことになっちゃうから」

9　通学路

サトル「（アサギのことが気になって）もう、カンベンして下さいよ。刑事さん」
坂　田「逃げようったってダメだよ。君にはもう少し聞きたい事がある」
サトル、学校の方を見て
サトル「アサギ……」

10　道

レナと引きずられるように歩くアサギ。
冷ややかな表情で二人についていくイツミ。
アサギ「ちょっと待ってよ！」
とレナの手を振りほどき、立ち止まる。
アサギ「ちゃんと説明してよ、どういうことなの!?」
レ　ナ「……そうね、わけわかんないよね」
アサギ「それに私、ミチコの居場所なんて知らないわ」
イツミ「さっき彼女の夢見たでしょ？」
アサギ「……え？」
レ　ナ「イツミのリーディング能力はとても強いの」
アサギ「リーディング？」
レ　ナ「人の心を読む力よ」
アサギ「……」
レ　ナ「信じないなんて言わないでよね。鳴田さんの力を見たでしょ。あれはアポート。遠くにあるモノを瞬間的に引き寄せる力よ」
アサギ「（イツミをみて）……私のいを読んだの？」
イツミ「……ごめんなさい」
レ　ナ「あなたが見たのはただの夢じゃない。彼女からのSOSよ」
アサギ「SOS……」
レ　ナ「彼女は今、強く心を閉ざしていて、イツミにも捕らえることができないの。でも、あなたの呼びかけになら応えてくれるかもしれない」
アサギ「そんなこと、できないよ、私」
レ　ナ「押さえつけてる力が暴走したら大変なことになるのよ」
イツミ「多分、生きていられない」
レ　ナ「助けたくないの？」
アサギ「……見つけて、どうするの？」
レ　ナ「私たちのいる研究所に連れていく。他に方法はないわ」
アサギ「……」

11　ビルの屋上

静かで見晴らしのいい場所。
アサギの手を握り静かに語りかけるイツミ。
イツミ「心を落ち着かせて、彼女のことを思い出して……」
やや離れて二人を見ているレナ。
イツミ「仲良かったのね、彼女と……」
アサギ「前はね。お互い、親のいない同士だったし……。でも最近は誰とも話そうとしなくなってた……」
レ　ナ「きっとリーディングの能力にも覚醒してたのね。知りたくもない人の心が読めちゃうんだから、人間嫌いにもなるわ」
イツミ「……」
アサギ「人の心が読めるって、そんなに辛いことなの？」
レ　ナ「今にあなたにも判るわ」
アサギ「え？」
イツミ「黙って。彼女のことだけ考えて」
目を閉じ、神経を集中するアサギ。

12　イメージ

ミチコの笑顔。
アサギと一緒に遊んでいるミチコ。

13　ビルの隙間

うす暗い所にうずくまっているミチコ。

14　懸命にミチコの事を考えているアサギ

15　ビルの隙間

ゆっくりと顔を上げるミチコ。
ミチコ「アサギ……？」

16　ビルの屋上

アサギの表情がピクリと動く。
イツミ「応えた！」

17　ビルの隙間

虚脱したような表情で立ち上がるミチコ。
ミチコの声「もう駄目。みんなうるさすぎる……」
フラフラと歩き出す。
突然、様々な人の声が暴力的に聞こえてくる。

18　イメージ

雑踏。
街並。
通りすぎる人々の顔。
それらの歪んだ映像が断辺的にアサギの頭に飛び込んで、唐突に消える。

19　ビルの屋上

ハッと目を開けるアサギ、眩暈を感じてよろける。
イツミ「切れた。クラッシュ寸前よ」
掴っていたアサギの手を放すイツミ。
レ　ナ「意識は辿れたの？」
イツミ「そんなに遠くない」

PROFILE

楠田レイジ
（高野　八誠）

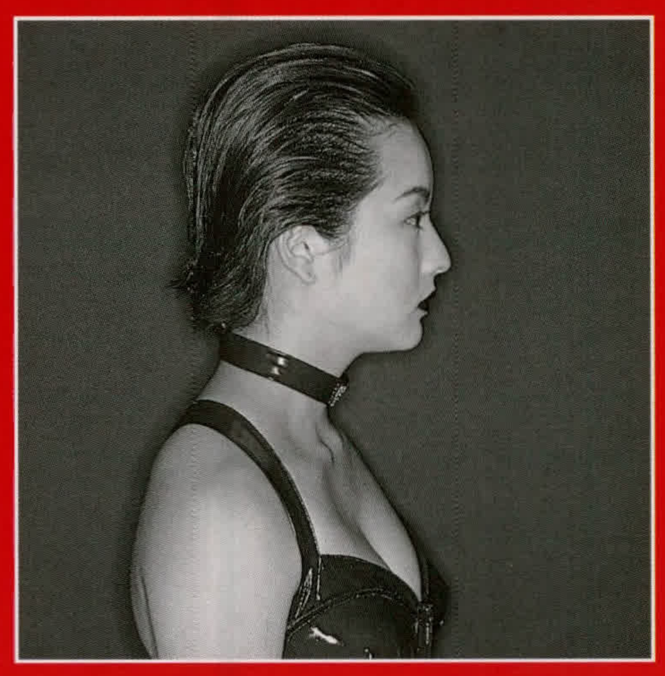
1978年1月9日生　千葉県出身
T176
CF　P&G「クレアラシルフェイス・ウオッシュ」
映画「息子」他

吉野トモコ
（直瀬　遥歩）

1980年8月1日生
B85　W58　H85
雑誌「B・L・T」毎月連載
映画「リング」他

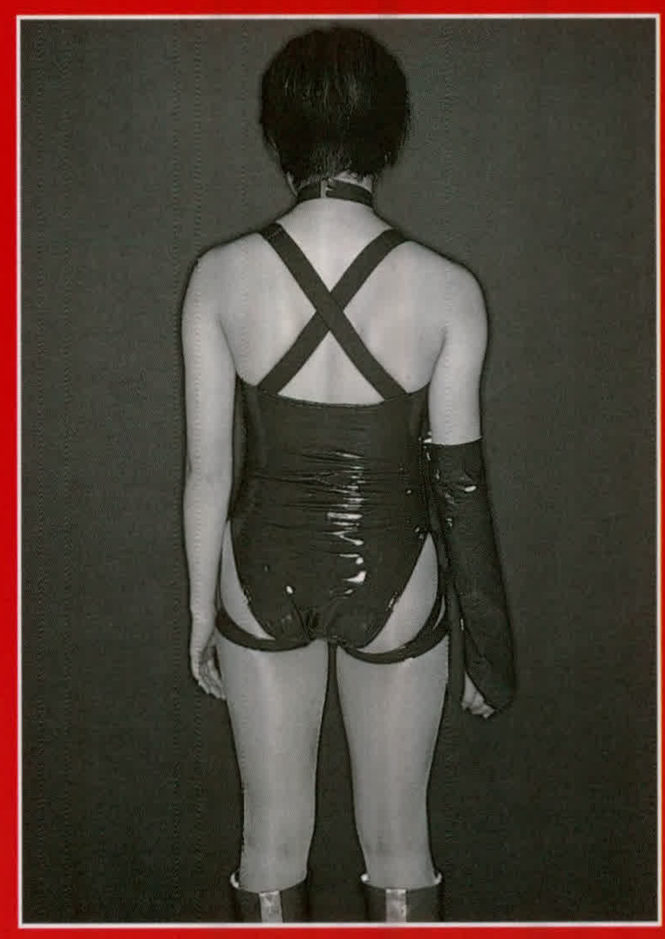
桐生ヤヨイ
（辻　彩加）

1981年10月19日生　東京都出身
B84　W60　H85
雑誌　マガジンハウス「POPEYE」



Ψ（サイ）
（森　ひろこ）

1978年8月16日生　大阪府出身
B88　W59　H87
1997年度　ミスヤングマガジングランプリ



PROFILE

その他の登場人物

門倉清之助
（中丸　新将）

1949年4月25日生
ジャン・ルコック演劇学校卒
TBS「オトナの男」他
舞台「オズの魔法使い」他

嶋田ミチコ
（山口　もえ）

1977年6月11日生
B82　W58　H83
CF　エスエス製薬
「エスタック鼻炎ソフトキャップ」
CX「へなちょこパンチ」他

如月リエコ
（田辺　晶）

1976年2月6日生　東京都出身
血液型　O型　B84　W58　H88
雑誌　小学館「Can　Cam」他

坂田刑事
（大滝　明利）

1964年12月18日生　宮城県出身
T172　W66
TV「ウルトラマンティガ」他
ビデオ「静かなるドン1・2」他

STAFF

WEEKEND DRAMA

サイバー美少女

デロデロ

[START]1998.4.4 [ON AIR]EVERY SATURDAY AM0:40～1:10

製作 ◆ 円谷　一夫（円谷プロダクション）
ビジュアルスーパーバイザー ◆ 高野　宏一（円谷プロダクション）
衣装スーパーバイザー ◆ 池谷　仙克（コダイ）
題字 ◆ 実相寺昭雄（コダイ）
プロデューサー ◆ 中嶋　　豪（テレビ朝日）
濱田　知彦（円谷プロダクション）
油谷　岩夫（コダイ）
シリーズ構成 ◆ 横谷　まさひろ
脚本 ◆ 第1、2話　横谷　まさひろ
笠井　健夫
第3話　　中村　結美
笠井　健夫

監督 ◆ 中嶋　豪
撮影 ◆ 岡田　次雄
照明 ◆ 金子　雅勇
音声 ◆ 末村　萌律喬
映像 ◆ 土江　順祐
美術 ◆ 五辻　圭
助監督 ◆ 福島　清和

制作担当 ◆ 程塚　貞男
キャスティング ◆ 安藤　実
スクリプター ◆ 竹本貴久子
スチール ◆ KATSU

広報 ◆ 松本　実希子（テレビ朝日）
アシスタントプロデューサー ◆ 松岡美智子（円谷プロダクション）
由良　達也（コダイ）

監督助手 ◆ 松村　和順
新藤　風
制作進行 ◆ 松尾　文章
撮影助手 ◆ 向後　光徳
照明助手 ◆ 里館　統康
植田　力也
音声助手 ◆ 中村　裕司
久保　博文
石堂　敬一
美術担当 ◆ 大村　幸治
米澤　　良
美術進行 ◆ 福田　宣子
スタイリスト ◆ 田口　育美
櫻井　貴子
ヘアー&メイク ◆ 小住　弘美
衣装デザイン助手 ◆ 黒瀧　きみえ
飯田　園子
CGコーディネーター ◆ 酒井　啓行
CGクリエーター ◆ 國島　宜弘
デジタルエフェクト ◆ 大久保　崇治
関口　芳勝
三田　創

編集 ◆ 山田　宏司
EED ◆ 門間　英行
サウンドデザイン ◆ 伊藤　克巳
音楽 ◆ 桜庭　統
主題歌 ◆ 永遠という瞬間（トキ）の中で
作詞・作曲◆ 松田　樹里亜
編曲◆ 月光恵亮
歌 ◆ 松田　樹里亜
(cutting edge)
音楽協力 ◆ テレビ朝日ミュージック
技術 ◆ ウエルアップ
照明 ◆ エルテー宮川
音声 ◆ アトミック
美術 ◆ オフィス・ハラ
操演 ◆ フィールドゴール
メイク&スタイリング ◆ オフィス・タグ
衣装デザイン ◆ 池谷事務所
CG ◆ パナソニックワンダーテインメント
音響 ◆ スワラプロダクション
仕上げ ◆ ザ・チューブ
制作協力 ◆ コダイ

制作 ◆ テレビ朝日
円谷プロダクション

To be continued...

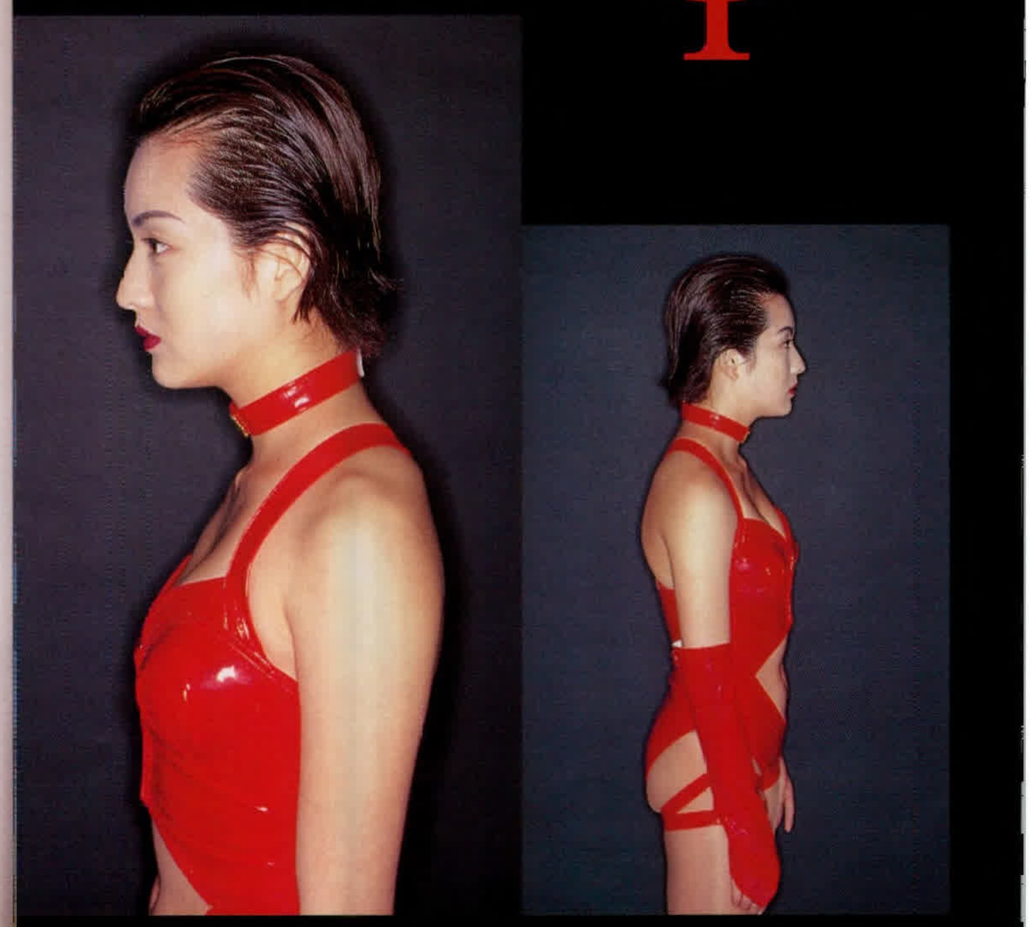
記者発表

1998,3,13

サイバー美少女

テロメア

サイ
Ψ



イツミに抱きつき、
キスしようとするヤヨイ・・・。

ユキエの部屋

鏡の中になにかを見つけて・・・。

さまざまな検査を受けている三人。

シールドルーム

虚脱したような異常な表情で
佇む紺野ユキエ。

ユキエの心を
リーディングしようとするが・・・。

服を脱ぐアサギとイツミ。

研究室

服の下のバイオスーツがあらわになる。

商店街

何かを感じるイツミ。

圧倒的な量の声がミチコの頭の中に響き・・・

『キャァァァー！』

本番前のヒトコマです。

『うるさいんだよ、黙れ黙れ黙れ！』

近くの若い女につかみかかる。

警視部

ミチコを見つけました。ダンクラー

『・・・誰だったんだろ、あの人』

風れたアオキを発見するこうまきカメラ。

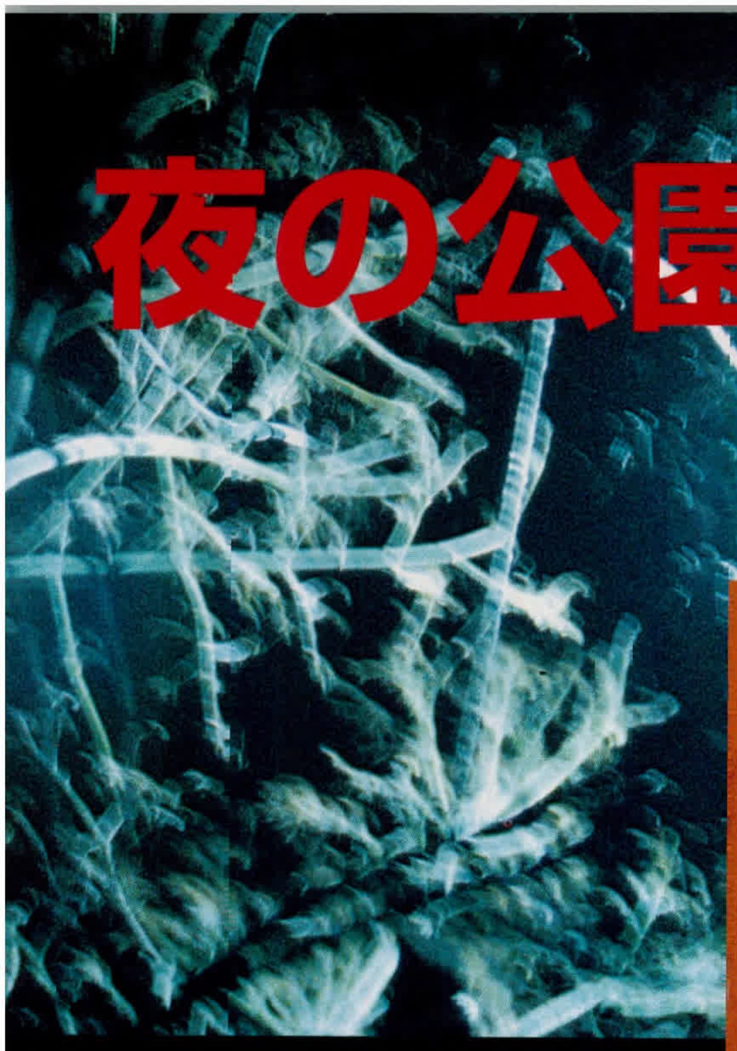
コーム姿のコバーカル。

看板娘の高校生たち。
その中央にたたずむアオキの姿。

看板カメラマン姿のアオキ。
現場にて。

ボーイフレンド、オフィスの男の子。

夜の公園



近づいてくる人影に注目するアサギたち。

物陰に隠れる三人。

吉野トモコを気づかうふたり。

おびえるトモコをかばうアサギ。

テーブルを囲んでいるアサギ、レナ、シュウ、サトル。

ケーキ屋「エンジェル」

テレパシーを送るレナ『あわれな奴・・・一生童貞のままよ』

イツミ『・・・見てるよ、犯人。見て笑ってる』

昼間の公園

役に入り込むイツミ役の三輪ひとみ

『中嶋監督、上手に撮れてますか？』

『毎日毎日、寒いわねェ』

廃屋

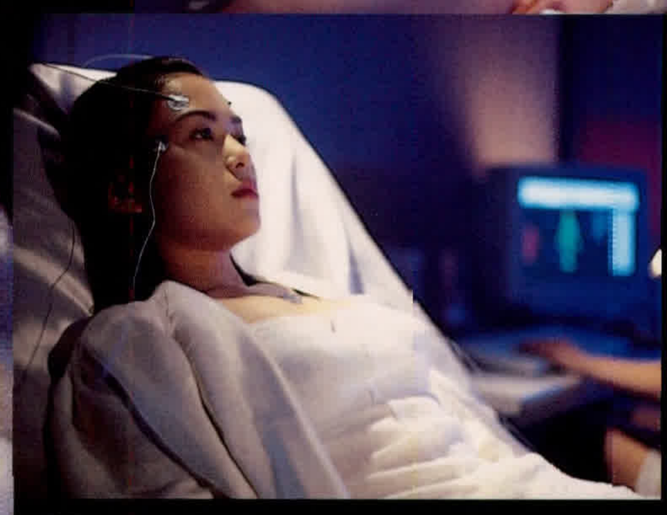
レイジの死体が転がっている。
その横にシュウが立ち・・・。

強大なサイコキネシスを放射するレナ。

肉体を融合しようとするシュウ。

シュウと対峙する3人だが・・・。

ベッドの上で目を覚ますアサギ。



朦朧とした意識の中・・・。

ファーストクラッシュのデータを収集しようと。

アサギは服を脱がされ・・・。

治療室

刻々と集められるアサギの身体データ。

研究助手・如月リエコが表情のない顔でアサギの体を調べている。

世の中に起こる事件の数々を
超能力を持った女子高生が
自分の力と葛藤しながらも
次々と事件を解決していく！

サイバー美少女テロメア

Official Book

APART